

ボランティアの養成・研修事業

「ボランティア養成セミナー」

1. 趣旨

ボランティア活動の意義を理解するとともに国立赤城青少年交流の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年6月1日（土）～6月2日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上

②参加人数 23名

③参加者の内訳 高校生9名、大学生12名、社会人2名

3. 企画運営のポイント

(1) ボランティア活動を行う上で、必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画した。

(2) 法人ボランティアとして活動してきた先輩ボランティアが、自らの体験談を発表したり、プログラムの一部を担ったりすることで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせるとともに、より身近なものとしてとらえられるようにした。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
6月1日 (土)	開会行事 演習「ボランティア活動の技術」 講師：当所職員 中谷 仁 講義「青少年教育」 講師：当所職員 次長 齊藤 裕徳	講義「ボランティア活動の意義」 講師：N u k i i t o 代表 高山 弘毅 氏 演習「ボランティア活動の技術」 講師：当所職員 中山 太平	説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」 講師：法人ボランティア 根岸 咲代子 福地 えみり 大山 翔
6月2日 (日)	講義「救命救急法」 講師：前橋市消防局北消防署 署員 講義「青少年教育施設の現状と運営」 講師：当所職員 次長 齊藤 裕徳	説明「法人ボランティア登録制度」 講師：当所職員 中山 太平 閉会行事	

5. 主な活動内容



演習「ボランティア活動の技術」



講義「ボランティア活動の意義」



演習「ボランティア活動の技術」



講義「青少年教育施設のボランティア活動」



演習「救命救急法」



講義「講義青少年教育施設の現状と課題」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足21名(91%)、やや満足2名(9%)

(2) 参加者の声

- 2日間を通して、ボランティアや青少年教育の知識を深め、実践的な力もついた。
- 様々な年齢の方と交流し、意見交換をする良い機会だった。
- 参加者としての視点や指導者側としての視点に立ち講義や実習を受けることができ、有意義な時間になった。
- ボランティアの意義について改めて考える機会となり、ボランティアの必要性や可能性を知ることができた。
- 青少年教育施設の現状や現代社会の課題について学び、今後、ボランティアとして活動する際の参考になった。

(3) 成果

- 知識習得のための講義と技能習得のための実習を効果的に組み合わせることから高い満足度につながった。
- 先輩法人ボランティアが参加した事業について紹介することで、実際の事業の様子やボランティア活動の具体的なイメージをもつことにつながった。

(4) 課題

- 当機構のボランティア養成カリキュラムを1泊2日で履修するため、タイトな日程となってしまった。休憩時間や講義の組み合わせ等を考え、ゆとりのある日程を計画することが必要である。
- キャンセル等もあり、定員を割る参加者数となった。広報活動を群馬県内の高等学校、大学を中心に行ったが、大学への広報に関しては近県への広報も実施するなど工夫が必要である。

担当：中山 太平